

山下久夫・斎藤英喜編 日本書紀1300年史を問う

A5判上製・472頁／定価：本体8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1990-2 【2020年6月刊行】

古代から近現代に至るまで、日本書紀を読むという行為は、その時代固有のあらたな「歴史」や「神話」を創造していく、能動的な知の運動であった。

日本書紀編纂より1300年を迎えたいま、国文学、歴史学、神話学、思想史研究などの多領域から、日本書紀の受容史を問い直す。

内容目次

I 古代

- 第1章 成立前後の日本書紀(関根 淳)
第2章 天文異変と史書の生成——舎人親王の作品としての『日本書紀』(細井浩志)
第3章 日本書紀と殯宮儀礼——モガリ(殯)のアルケオロジー(呉哲男)

【研究ノート】日本書紀とシャーマニズム(アンダソヴァ・マラル)

II 中世

- 第4章 『釈日本紀』、『日本書紀纂疏』から『神書聞塵』へ——中世における〈注釈知〉の系譜をもとめて(斎藤英喜)
第5章 『八幡宇佐宮御託宣集』の「神代」と「日本紀」(村田真一)
第6章 伊勢の日本紀——道祥と春瑜の『日本書紀私見聞』をめぐる(星優也)
第7章 神仏を生む中世の神代巻——大日靈貴から天照、大日靈から大日如来へ(松本郁代)
第8章 中世神学と日本紀——13～14世紀における至高の神と靈魂の探求(小川豊生)

【研究ノート】スサノヲの「悪」をめぐる——『釈日本紀』から『日本書紀纂疏』の変遷を考える(鈴木耕太郎)

III 近世

- 第9章 「附会」と「考証」のあいだ——垂加神道の『日本書紀』解釈(齋藤公太)
第10章 忌部正通『神代巻口訣』と忌部神道(伊藤聡)
第11章 近世儒者の神代巻批判と「神道」「上古」——鈴木貞斎に即して(松川雅信)
第12章 宣長『古事記伝』と重胤『日本書紀伝』——起源神話の創造として(山下久夫)
第13章 近世日本における「天壤無窮の神勅」観(前田 勉)

IV 近現代

- 第14章 初期ジャパノロジストと日本書紀の翻訳(平藤喜久子)
第15章 教派神道の『日本書紀』解釈と朝鮮布教——佐野経彦の「建白書」を中心に(権東祐)
第16章 読み替えられた『日本書紀』の系譜と折口信夫(斎藤英喜)
第17章 近代歴史学のなかの『日本書紀』——建国神話を中心として(田中聡)



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コ ー ド 3402)	
冊 数	冊	日本書紀1300年史を問う		本体8,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1990-2
お 名 前			tel		
			e-mail		
ご 住 所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担)				
		◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎			

本書HPのQRコード

日本的時空観の形成

吉川真司・倉本一宏編

日本における古典的・伝統的な時空観はいつ、どのように形成されたのであろうか。文献史学、考古学、歴史地理学、国文学の研究者たちがそれぞれの視点から分析。古代から中世にかけての日本的時空観の形成・定着のプロセスを具体的かつ実証的に明らかにする。

▶A5判・608頁／本体 12,500円(税別) ISBN978-4-7842-1892-9

日記・古記録の世界

倉本一宏編

日本の日記・古記録を題材として、日本史学、日本文学など関連分野の第一線の研究者がそれぞれの視点からその本質に迫った論文集。日記とは何か、古記録とは何か、それらを記録することの意味、記主や伝来をめぐる諸問題、さらには古代・中世における使われ方など、単に日記・古記録を利用するだけにとどまらない意欲作35論考。

▶A5判・792頁／本体 12,500円(税別) ISBN978-4-7842-1794-6

変容する聖地 伊勢

ジョン・ブリーン編

伊勢神宮は古代から変わることなく受け継がれてきた聖域というイメージで語られるが、移りかわる時代のなかで大きく変貌を遂げてきた。本書は国内外の一線の研究者による古代から近・現代にわたる論考16編を取め、伊勢神宮の変容の歴史をひもとく。

▶A5判・340頁／本体 2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1836-3

怨霊・怪異・伊勢神宮

山田雄司著

古代・中世社会で大きな意味をもち、社会の底流で歴史を動かしてきた怨霊・怪異。早良親王・菅原道真・崇徳院などの怨霊や、様々に記録・伝承される怪異など、その諸相を歴史的に跡づける。さらには親鸞や伊勢神宮といった、神と仏をめぐる領域をも射程に入れて集大成する。

▶A5判・448頁／本体 7,000円(税別) ISBN978-4-7842-1747-2

藤原道長事典 御堂関白記からみる貴族社会

大津透・池田尚隆編

『御堂関白記全註釈』(全16冊)の成果をふまえ、藤原道長(966-1027)が生きて、見ていた貴族社会のあり方を「政務・儀礼」「風俗・信仰」など11のテーマに分け、事典の形をとって具体的に明らかにする。最新の研究成果にもとづいた新たな平安朝の貴族社会像を提示し、各ブロック冒頭には、専門の執筆による詳細な解説を収録。

▶A5判・462頁／本体 6,000円 ISBN978-4-7842-1873-8

平安王朝の葬送 死・入棺・埋骨

瀧谷寿著

日本古代摂関・院政期の天皇(桓武〜安徳天皇)と貴族の葬送儀礼における具体相をさぐり、その相違点を考察する。平安王朝の死、入棺、葬送、埋骨の様相を通覧することから、皇権の在り方を考える。平安朝史研究にながずさわり、精通した著者によるこころみの一書。

▶46判・304頁／本体 3,700円(税別) ISBN978-4-7842-1832-5

日本古代の武具 『国家珍宝帳』と正倉院の器仗

近藤好和著

光明皇太后が東大寺に献納した聖武太上天皇の遺愛品の献納品目録『国家珍宝帳』に書かれた古代器仗の情報と、正倉院宝物として伝わる器仗の重要性はいままでのない。それぞれを詳細に解説し、図版編には正倉院器仗を中心に多数の器仗を収録。日本古代の器仗を理解するための基本図書を指す。

▶A5判・470頁／本体 8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1766-3

世界遺産と天皇陵古墳を問う

今尾文昭・高木博志編

世界文化遺産登録に向けた動きのなかで浮かびあがる天皇陵をめぐる諸問題——考古学の成果との齟齬、天皇陵指定の経緯、陵墓公開運動、社会への広がり(ウェブ・教科書・報道)などを多角的に取りあげ、これからの天皇陵のあり方を考える。

▶46判・304頁／本体 2,300円(税別) ISBN978-4-7842-1872-1

説話研究を拓く 説話文学と歴史史料の間に

倉本一宏編

説話とは何か? まったくの創作でもなく古記録でもない、つかみどころのない作品はなぜ生まれ、いかに編纂され、伝えられたのか。日本史学や日本文学、宗教学、文化史学の研究者が一堂に集い、「説話」という文学ジャンルを解明すべく企図された、日文研共同研究の成果。説話文学と歴史史料の間を往還しつつ、説話研究に新たな地平を拓く。

▶A5判・452頁／本体 9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1967-4

神楽と祭文の中世 変容する信仰のかたち

斎藤英喜・井上隆弘編

「民俗芸能」と呼ばれ、古代以来伝わるものとされる「神楽」。それらの深層を探ると、そこには混沌とした「中世」の信仰のかたちが現れる。中世の信仰と思想を伝える「祭文」を中心に、中世神楽および関連する陰陽道・密教・アジアの巫俗の世界を読み解く意欲作。

▶A5判・390頁／本体 8,000円(税別) ISBN978-4-7842-1871-4

神仏習合の歴史と儀礼空間

嵯峨井建著

日本宗教史の基本位置にある神道と仏教との関わりを、祭祀・法会の空間である神社・寺院の儀礼空間を視点に論じ、神仏習合の実態を明らかにする。神宮寺における神祇奉斎、寺院附属の鎮守社、仏教儀礼である神前読経、神職系図に基づいた神道周縁の仏法との関わりなど、豊富な事例とともに神仏習合の諸形態を丹念にまとめた実証研究。

▶A5判・430頁／本体 8,600円 ISBN978-4-7842-7000-2

※後鳥羽院政の展開と儀礼

谷昇著

後鳥羽天皇(上皇)が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証することにより、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図したものである。

▶A5判・328頁／本体 6,000円 ISBN978-4-7842-1536-2

平安時代陰陽道史研究

山下克明著

陰陽道の日本の特質とは何か? その成立・展開期である平安時代を中心に、仏教・神祇信仰と並ぶ宗教としての陰陽道のあり方、陰陽師たちの天文観測技術や呪術・祭祀など活動の実態とその浸透、彼らの信仰などをさまざまな角度から明らかにする。

▶A5判・460頁／本体 8,500円(税別) ISBN978-4-7842-1780-9

平安期の願文と仏教的世界観

工藤美和子著

願文自体が何を語ろうとしているのか分析することで、天皇から中下級貴族・女性・僧侶にいたる人々の仏教理解や具体的信仰のあり方、所属する社会集団内部でのそれぞれの構成員が果たした公共的な役割、寺院や僧侶と世俗社会との関わり方、具体的な宗教的実践のあり方を明らかにする。(初版2008年)

▶A5判・368頁／本体 7,400円(税別) ISBN978-4-7842-7014-9

日本古代国家の農民規範と地域社会

坂江渉著

「農民規範」と「浮浪人」をキーワードに国家が地域社会に期待した農民像、さらには律令国家の社会統治原理を明らかにする。その一方、風土記や記紀にみえる神話や伝承、民間歌謡を素材として村落における農民結合のあり方、族長層と農民との支配―庇護関係を論じ、国家と地域社会の関係を双方の視点から分析する。

▶A5判・464頁／本体 9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1787-8

江戸後期儒者のフィロロギー

竹村英二著

江戸時代後期〜幕末に「市井」の儒者たちによる高度な考証的学問が発展。彼らの属性は、客観性と実証性を備えた、既成思想に束縛されない学究活動を可能とした。日本の実証的学問の成立は清朝考証学と近代西洋体験を基盤とする一、こうした所論は再考をせまられる。

▶A5判・256頁／本体 5,500円(税別) ISBN978-4-7842-1838-7